毎日新聞 2017/1/5 著作権申請/許諾書番号 C6780

汚染土議事録

環境省 発言削除し開示

再利用誘導 隠蔽か

東京電力福島第1原発事故の除染で出た汚染土の再利用を巡る非公開会合の議事録を環境省が「全部開示」としながら、実際には自らの発言の一部を削除していたことが分かった。削除したのは環境省が議論を誘導したと受け取れる発言。その発言から放射性セシウム1キロ当たり8000ベクレルを上限値とした汚染土再利用の方針決定につながっていた。情報公開の専門家は「意思形成過程の隠蔽で極めて悪質」と批判している。（社会面に関連記事）

この会合は「放射線影響安全性評価検討ワーキンググループ」。放射線の専門家や環境省、事務局の日本原子力研究開発機構（JAEA）の職員ら約20人が出席し、昨年1～5月に計6回開かれた。当初は会合の存在自体が非公表だったが、情報公開請求が相次ぐなどしたため、環境省は8月に議事録などをホームページで公表。事務取り扱い上は「全部開示」とされた。

公表分には議事録になる前の「議事録案」も含まれているが、毎日新聞はそれ以前の「素案」を入手した。議事録などと比べると、発言の削除や変更などが複数あった。素案では2月24日の第4回会合で環境省職員が「8000ベクレルの評価で災害時など年間1ミリシーベルトを少し超えるケースが出ているが、これが1ミリシーベルトに収まるとよいのだが」と発言。しかし、公表された議事録からは削除されていた。

8000ベクレルを超えると特別な処理が必要な「指定廃棄物」となるが、一連の会合では同ベクレルを上限とする汚染土の再利用を協議。この日の会合で、8000ベクレルの汚染土を使った防潮堤が災害で崩れた際の復旧作業では、一般人の年間被ばく線量上限の1ミリシーベルトを超えるとの試算値がJAEAから示された。このままでは再利用の上限値を同ベクレルから下げる可能性もあったが、環境省職員の発言を呼び水に、専門家らが「崩れれば他の土と混ざり合って希釈される（薄まる）」などと試算のやり直しを求めた。

その後、希釈で年間1ミリシーベルト未満に収まるとの試算結果が公に示され、環境省は6月、8000ベクレルを上限に汚染土を再利用する方針を正式決定した。【日野行介】

会合 正当性に疑問

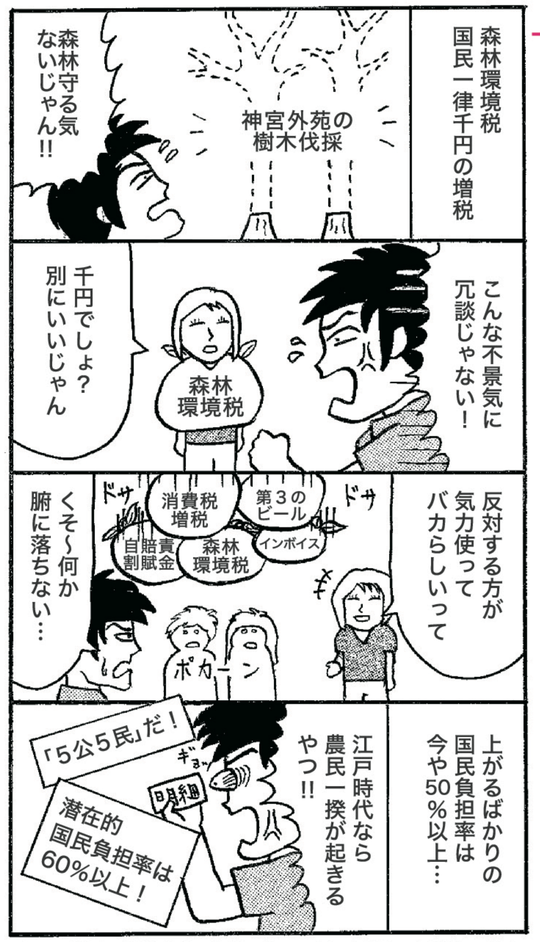
解説 環境省が8000ベクレルにこだわるのは、最大で東京ドーム18個分とされる汚染土の最終処分量を大幅に減らしたいからだとみられる。

原発事故後に成立した放射性物質汚染対処特別措置法は、8000ベクレル超を特別な処理が必要な「指定廃棄物」とし、同ベクレル以下を「問題なく廃棄できる基準」と規定。一方、従来の原子炉等規制法は、原発解体に伴う金属などの再利用基準を100ベクレル以下と定め、両者に準じれば100ベクレル超～8000ベクレル以下は「特別な処理の必要がない廃棄物」という解釈となる。

このため環境省の非公開会合では、汚染土を道路の盛り土や防潮堤に使いコンクリートで覆うことなどで8000ベクレルを上限に再利用できないかが検討された。再利用は一般人の年間被ばく線量を下回ることが前提だったが、会合で示されたのは前提を崩す試算。環境省が「結論ありき」で議論を誘導し、その過程を議事録から削除したとなれば、結論の妥当性はもちろん、会合自体の正当性が問われる。【日野行介】

【裏面に関連記事】新宿御苑における「放射能汚染土」の再利用の実証実験について、６月議会で区長に質問しました。

さわいめぐみへの
ご意見・お問合せはこちら
070-1215-0018
otoiawase@sawaimegumi.net



４コマ漫画：野村義美　作者からひと言：「政治に無関心で他人任せ」がいかに危険か、今はそれが如実に表れています。皆が主権者なのですから遠慮なく声を上げましょう！

区政報告会のご案内　入場無料 / 申し込み不要

【金曜 夜の報告会】日時：8月25日 18：30～20：00
開場：17：30 － 閉場：21：00

【土曜 午後の報告会】日時：8月26日14：00～16：00
開場：12：30 － 閉場：18：00

場所：会議室『ユアスマイルⅣ』
東京都新宿区西新宿 7-18-13
ハイム大成ビル408号

MAP　道順

議会で賛成/反対 討論！

第２回区議会定例会議決結果

討論の録画はこちら

森林環境税

自民	公明	共産	新宿会	民無ク	維新	参政	れいわ	現役	
○	○	×	○	○	○	○	×	○	可決

第 41 号議案 新宿区 特別区税条例の一部を改正する条例について、れいわ新選組 新宿は反対討論を行った。

反対のポイント

- この不況下で、不公平性が高い国民一律 1000 円の税負担を強いる
- 税制度として多くの課題を残し、増税だけが進められた
- ビジョンなし、専門家なしの国策、増税しながら神宮外苑等の森林伐採を進める矛盾

新宿区のこれまでの使途

- 間伐材の使用、カーボンオフセット事業への参画

視点⇒森林環境税の意義とは？！

- 神宮外苑の100年の森の再開発で3000本以上の樹木を伐採する計画を進めるために、新宿区は風致地区条例の変更を実施
- 反対署名は 20 万筆以上！市民にとっては受け入れがたい矛盾

給食無償化

自民	公明	共産	新宿会	民無ク	維新	参政	れいわ	現役	
×	×	○	×	○	×	×	○	○	否決

議員提出議案第 8 号新宿区学校給食費の助成に関する条例について、れいわ新選組 新宿は賛成討論を行った。選挙では多数の候補者が給食無償化を訴え当選したが、なぜか今回はその多くが反対に回った。

賛成のポイント！

- 学校給食は子どもたちのセーフティーネット
- 長年の不況、コロナ禍、物価高、現政権のさらなる増税で貧困が深刻化！対策が急がれる
- 財政的にも豊かな新宿区、子どもたちのために実施を躊躇する理由はない

れいわ新選組 新宿の主張

- 地方自治体主導で、国への働きかけを！
- もっと踏み込んだ支援を！
  社会が深刻な貧困に陥った時は真っ先に子どもたちを支援する仕組みを整備すべき
  長期休暇などの学校休業にも対応できるような施策が必要
- 食育の質の向上を！
  給食無償化の制度整備を土台として、今後、無農薬、オーガニック食材などの導入を推進

地方から国を揺らせ！

地方でも、積極財政は可能です！

1. 国を動かせ！地方交付税交付金の大幅増額で、全国津々浦々にお金を回す！
2. 地方から積極財政を！貯めこんだ「基金」、いつ使うの？今でしょ!?
3. 民間資金も活用し地域を活性化！